

【77】カタカナ名の台風

私の小学生の頃は、台風の名前はカタカナで、それが西洋の女性の名前だということは、学校の理科で教わったのか先刻承知していました。

今次大戦の敗戦後、わが国の気象業務は米軍の管理下にあり、昭和22年(1947)5月からは、台風の予報や情報の一般への提供は米軍の発表に従うということになりました。米軍の台風の名称は、アルファベット順の女性名のリストを用意しておき、そのリストの名を台風の発生順に付けていくものです。昭和20年(1945)9月の枕崎台風はこの措置の適用前でしたので日本名です。

この方式になった昭和22年(1947)から、どういうわけか毎年のように大型の強い台風が襲来し災害に見舞われました。主なものを挙げると、

(年 月)	(名 称)	(主な被害)
昭和22年(1947)9月	カスリン(Kathrine)	利根川破堤
23年(1948)9月	アイオン(Iona)	一関市(岩手県)連年災
24年(1949)8月	キティ(Kitty)	東京湾高潮
25年(1950)9月	ジェーン(Jane)	大阪湾高潮
26年(1951)10月	ルース(Ruth)	錦川(山口県)被害

と、日本各地に惨禍をもたらし、”猛女”の襲来と恐れられたのです。

昭和27年(1952)4月にわが国は独立し、翌年の昭和28年(1953)から横文字の台風名をやめ、その年での発生順に番号を付けるという現行の方式に変わりましたが、とくに大災害をもたらした台風には固有の名を与えることもあります。

例えば、昭和34年(1959)9月の15号台風は、伊勢湾の大高潮で死者5千人以上を出しましたが、後に「伊勢湾台風」という名を付されました。

というわけで、わずか6年間のことでしたが、わが国の災害史に残るカタカナ名台風の時代があったのです。付言すれば、台風名に人命をつける方式はアメリカでは、西太平洋の台風、カリブ海メキシコ湾のハリケーンの両方でそれぞれ現在も行われていますが、時代の流れに従い女性の名だけを付ける従来の方式が男性の名と交互にするという方式に改められたそうです。